			:校 縣	開講年度	令和04年度	′2022年度\	拇	業科目	計質機	 江学特論	
	瓦業高等 機情報	ו בו ובי	<u>^ III</u>	一大/ 又一行 也也	」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」	(2022干汉)	ענ ן	<u>**1712</u>]山 I J T 1/文	שוח הו ר דיי	
<u> </u>		0017)			秋日区分		専門/選	切		
受業形態		0012 科目区分 講義 単位の種別						学修単位			
開設学科			 T学専 T			対象学年	<u>字修单位: 2</u>				
記 明設期		前期						2			
<u>1982/49</u> 2科書/教	· ************************************	1111111	を印刷物、pa	dfファイル	 などで配布する。	Zerolasza					
<u> </u>		舘泉			0.C CH0.1- 7 00						
到達目		T-H-1									
D授業で 3知識を	は、文房具だ 養う。	から一歩	踏み出すため	こので	印識と最新動向を記	説明し、各人の研	究分野に	おいてもこ]ンピュー	なスキルとなっている。こ 夕をより積極的に活用でき シテーションカ、討論力を	
レーブリ	リック										
			理想的な到達	をレベルの目	目安 標準的な到			最低限の到達レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安	
ネットワークとセキュリ イ		ユツテ	ネットワークとセキュリティの概要を理解し、説明で きる。		ロー・コイットソー	ネットワークとセキュリテ ィの概要を理解する。		ネットワークとセキュリティの概要が最低限理解できる。		ネットワークとセキュリティの概要が理解できない。	
过想化技	術とクラウ	1 '	仮想化技術とクラウドの概 要を理解し、説明できる。		る。 を理解する	仮想化技術とクラウド概要 を理解する。		仮想化技術とクラウドの概 要が最低限理解できる。		仮想化技術とクラウドの概要が理解できない。	
人工知能、ディープラ- ング		ノーー	人工知能、ディープラーニングの概要を理解し、説明できる。		800 1人工对形、	八工和能、ナイーノフーー ン ング脚亜を理解する し		人工知能、ディープラーニ ングの概要が最低限理解で きる。		人工知能、ディープラーニングの概要が理解できない。	
プレゼンテーション 1		1	自らの研究分野を説明し 人に理解させることがで る。		自らの研究 ことができ	分野を説明する る。	自らの研究分野を最低限説 明することができる。			自らの研究分野を説明する ことができない。	
プレゼン [:]	テーション	2	自らの研究において、これから積極的にコンピュータを活用するアイディアを紹介し、人に理解させることができる。		-ターログの研究	を活用するアイディアを紹		自らの研究において、これ から積極的にコンピュータ を活用するアイディアを最 低限紹介できる。		自らの研究において、これから積極的にコンピュータを活用するアイディアを照会できない。	
 学科の ²	到達目標項				•		•			•	
	育目標 C2	<u> </u>	21/01/11								
教育方法	法等										
既要		夕を。 内容(この)	の授業では、文房具から一歩踏み出すために必要な知識と最新動向を説明し、各人の研究分野においてもコンピをより積極的に活用できる知識と経験を養うことを目標とし、コンピュータをツールとして活用するための実践容の講義と、ブレゼンテーション、討論を行う。 の科目は、企業で情報システム機器の開発を担当していた教員が、その経験を活かし、最新のシステム開発方法 ジンテーション手法等について講義とプレゼンテーションの実践で授業を行うものである。 業の形態としては、講義の他にプレゼンテーション、討論を各自2回行う。							て活用するための実践的な	
 受業の進	め方・方法	レゼ	ンテーション	/手法等にて	ついて講義とプレヤ	ヹンテーションの	実践で授	業を行うも	かし、最 いである	新のシステム開発方法、ブ 。	
受業の進 注意点	め方・方法	レゼ 授業 本自まりるとは	ンテーション アーション ア形態として アクラン アクラン アクラン アクラン アクラン アクラン アクラン アクラン	▽手法等についた。 「は、講義の 「表等の成績」 着けること 「シテーショ」 いう点が、 いがある。	Dいて講義とプレー D他にプレゼンテ- 責のみならず、予章 が必要である。 3ンを行うが、その 主意して発表を行っ 全く分野が異なり	<u>ブンテーションの</u> -ション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 o て欲しい。普段 O、その分野の基	きまりまでででである。 注目では、	業を行うも 行う。 施状況も考 究テーマを 度同じ研究	5のである 続して判 全く分野 の話	新のシステム開発方法、プ 。 断される。したがって自学 の違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す ンテーションにはこれまで	
注意点		レゼ 業 本自まりるとな	ンテーション アーション か形態 とし 発の の間の でいる はい でいる はい でいる はい でいる いい でいる かい でいる いい でいい いい	▽手法等についた。 「は、講義の 「表等の成績」 着けること 「シテーショ」 いう点が、 いがある。	Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテ- ものみならず、予覧 が必要である。 ヨンを行うが、その 自意して発表を行:	<u>ブンテーションの</u> -ション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 o て欲しい。普段 O、その分野の基	きまりまでででである。 注目では、	業を行うも 行う。 施状況も考 究テーマを 度同じ研究	5のである 続して判 全く分野 の話	。 断される。したがって自学 の違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す	
意点 受業の原	め方・方法 め方・方法	レゼ 授業(本科音) を かることない を を を を を を を を を を を を を を を と を と を	ンテーションで ヨカアーション で ヨカアーション で また で で で で で で で で で で で で で で で で で	▽手法等についた。 「は、講義の 「表等の成績」 着けること 「シテーショ」 いう点が、 いがある。	Dいて講義とプレー D他にプレゼンテ- 責のみならず、予章 が必要である。 3ンを行うが、その 主意して発表を行っ 全く分野が異なり	<u>ブンテーションの</u> -ション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 o て欲しい。普段 O、その分野の基	字 注 注 注 注 自 習 の ま は は は が ま は は も ま の ま は は も ま の ま は は も の ま は は も の は も の に が は も に も ら ら に ら ら ら に も に ら ら ら ら ら に ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	業を行うも 行う。 施状況も考 究テーマを 度同じ研究	のである が慮して判 全全く分野 のプレゼ	められる。したがって自学 の違う人達にもいかにわかがわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで	
意点	属性・履修	レゼ 授業(本科音) を かることない を を を を を を を を を を を を を を を と を と を	ンテーションで ヨカアーション で ヨカアーション で また で で で で で で で で で で で で で で で で で	・手法等にこには、講義のには、講義のはというでは、 表等ののでというでは、 またいのでは、 はいれるが、 はいかある。 ・・ションの	Dいて講義とプレー D他にプレゼンテ- 責のみならず、予章 が必要である。 3ンを行うが、その 主意して発表を行っ 全く分野が異なり	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	字 注 注 注 注 自 習 の ま は は は が ま は は も ま の ま は は も ま の ま は は も の ま は は も の は も の に が は も に も ら ら に ら ら ら に も に ら ら ら ら ら に ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	業を行うも 行う。 施状況も考 究テーマを 度同じ研究	のである が慮して判 全全く分野 のプレゼ	がされる。したがって自学 の違う人達にもいかにわかがわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで	
意点 受 業 の原	禹性・履 <u>値</u>	レゼ 授業(本科音) を かることない を を を を を を を を を を を を を を を と を と を	ンテーションで、アーションで、アーションで、アーションで、アーションで、アールのでは、大きないで、アールのでは、ア	・手法等にこには、講義のには、講義のはというでは、 表等ののでというでは、 またいのでは、 はいれるが、 はいかある。 ・・ションの	Dいて講義とプレー D他にプレゼンテ- 責のみならず、予章 が必要である。 3ンを行うが、その 主意して発表を行っ 全く分野が異なり	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	字 注 注 注 注 自 習 の ま は は は が ま は は も ま の ま は は も ま の ま は は も の ま は は も の は も の に が は も に も ら ら に ら ら ら に も に ら ら ら ら ら に ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	業を行うも 行う。 施状況も考 究テーマを 度同じ研究	のである が慮して判 全全く分野 のプレゼ	がされる。したがって自学 の違う人達にもいかにわかがわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで	
意点 受 業 の原	禹性・履 <u>値</u>	レゼ 授業(本科音) を かることない を を を を を を を を を を を を を を を と を と を	ンテーションで、アーションで、アーションで、アーションで、アーションで、アールのでは、大きないで、アールのでは、ア	で手法等にている。 には、講義の には、講義の成績を においる。 にいいれる。。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 でいれる。。 でいる。 でい。 でいる。	Dいて講義とプレー D他にプレゼンテ- 責のみならず、予章 が必要である。 3ンを行うが、その 主意して発表を行っ 全く分野が異なり	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	シ実践で授 会自2回 会自3の実 の対ある はは知識の 対応	業を行うも 行う。 施状況も考 究テーマを 度同じ研究	5のである 禁慮して判 注全く分野の話 のプレゼ	。 断される。したがって自学 の違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す	
意点 受 業 の原	禹性・履 <u>値</u>	レゼ業 科習た易こはお 多上 グ	ンテーションで 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	手法等にことは、講義のはときません。最表等のることを表すでは、またいのでは、からいのでは、からいのでは、からいのでは、一大利用	Dいて講義とプレー D他にプレゼンテ- 責のみならず、予章 が必要である。 3ンを行うが、その 主意して発表を行っ 全く分野が異なり	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	シ実践で授 会自2回 会自3の実 の対ある はは知識の 対応	業を行うも 行う。 施状況もま 究テーマを 寛テーび 受ない 人達へ	5のである 禁慮して判 注全く分野の話 のプレゼ	がされる。したがって自学 の違う人達にもいかにわかがわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで	
意点 受 業 の原	禹性・履 <u>値</u>	レ 授 本自まりるとな の E と グ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	ンテーション ファーション ひ形 成 横を すい とし 発 の で で で で で で で で で で で で で で で で で で	手法等にことは、講義のはときません。最表等のることを表すでは、またいのでは、からいのでは、からいのでは、からいのでは、一大利用	のいて講義とプレインで、 の他にプレゼンテー 情のみならず、予覧 にが必要である。 はまして発表を行っ 全く分野が異なり の評価は、学生間で	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	②実践で授回を 会自2回までは 会自3のでは 会のでは 会のでは 会のである。 対応 のである。 対応 のである。 対応 のである。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 が	業を行うもでいる。 を行う。 施状況もまた。 究実にいる。 でできない人達へ の到達目は	5のである	がされる。したがって自学 の違う人達にもいかにわかがわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで	
意点 受 業 の原] アクラ	禹性・履 <u>値</u>	レ 授 本自まりるとな の	ンテー きょう として できます として 発 に は は ない と 意 と し な で と し な で で か と 恵 ご か と 思 点 テース と で で か と 思 点 テース と で で で で で で で で で で で で で で で で で で	・手法 (ます) では、 講義 成 に できます。	Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー 情のみならず、予覧 が必要である。その 自ンを行うが、その 主意して発表を行っ 全く分野が異ない D評価は、学生間で トュリティ	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	文字 (1) (2) (2) (3) (3) (4) (4) (5) (4) (6) (4) (7) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (9) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4)	業を行うも 行う。 施状況もま 究テーマを 度ない人達へ の到達目相	のである 「たんない」 「ないない」 「ないないない」 「ないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	がされる。したがって自学 が違う人達にもいかにわかがわかる人達を前に発表す ジンテーションにはこれまで 務経験のある教員による授	
意点 受 業 の原	禹性・履信 ティブラーニ 画	レ 授 本自まりるとな の 多 こ 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	ン T	・手法 等に で	Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー 情のみならず、予能 どが必要である。その はごとで発表を行い 全く分野が異なり D評価は、学生間で キュリティ シ1	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	文字 (1) (2) (2) (3) (2) (3) (3) (4) (4) (5) (4) (6) (4) (7) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (9) (4) (10) (4) (11) (4) (12) (4) (12) (4) (12) (4) (12) (4) (12) (4) (12) (4) (13) (4) (14) (4) (15) (4) (15) (4) (15) (4) (16) (4) (17) (4) (17) (4) (17) (4) (17) (4) (17) (4)	業を行うも 行う。 施状況もも 究テーでで 度ない人達へ の到達目 ワークとも	のである 「たっぱ」 「たっぱ」 「なっぱ」 「	がされる。したがって自学 の違う人達にもいかにわかがわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで 務経験のある教員による授	
意点 受業の原 アクラ	禹性・履 <u>値</u>	レ 授 本自まりるとな の	ン T	・手法等にて、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー 情のみならず、予能 どが必要である。その はごとで発表を行い 全く分野が異なり D評価は、学生間で キュリティ シ1	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	実践で 2 自 2 回 2 自 3 の 3 は 5 の 3 は 6 の 4 自 5 の 4 自 5 の 9 日 6 の 9 日 6 の	業を行うも 行う。 施状況もき 究テーじの での の到達目 の の 可 の の の の の の の の の の の の の の の の	5のである が慮して 分のレ であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 できまれば、 できまれば、 できまれば、 できまれば、 できまれば、 できまれば、 できままれば、 できまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	断される。したがって自学 の違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで務経験のある教員による授 ・イの概要を理解する 人に理解させる	
意点 受業の原 アクラ	禹性・履信 ティブラーニ 画	レ 授 本自まりるとな の上 グ週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	ン T	で手法等には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	Dいて講義とプレインでは、 D他にプレゼンテート ものみならず、予定が必要である。 はいを行うが、そのである。 はいを行うが、そのでは、 を全く分野が異ない。 D評価は、学生間では、学生間では、 サユリティーション・ ションをできない。	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	実践自2回 空間 空間 空間 空間 空間 の の の の の 回 この この 自らの 自らの の 自らの	業を行うも 行う。 施状況も考えている。 でではいいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	5のである *** 「	断される。したがって自学 の違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す ンテーションにはこれまで 務経験のある教員による授 ディの概要を理解する 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる	
意点 受業の原 アクラ	禹性・履信 ティブラーニ 画	上グ週週週回回 <t< td=""><td>ンの目の2くと違う マーカー 態 成慣のえ多たレー</td><td>・手に表着シいわがー T</td><td>Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー 情のみならず、予 にが必要でする。その 自つを行う発表を行う 全く分野が異ない の評価は、学生間で キュリティ シ1 シ1 シ1</td><td>ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行</td><td>(支) (大) (大) (</td><td>業を行うも 行う。 施状テラのででは、できない。 ででは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ</td><td>SOOT IN STATE OF THE STATE OF</td><td>がされる。したがって自学 が違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで 務経験のある教員による授 ティの概要を理解する 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる</td></t<>	ンの目の2くと違う マーカー 態 成慣のえ多たレー	・手に表着シいわがー T	Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー 情のみならず、予 にが必要でする。その 自つを行う発表を行う 全く分野が異ない の評価は、学生間で キュリティ シ1 シ1 シ1	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	(支) (大) (大) (業を行うも 行う。 施状テラのででは、できない。 ででは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ	SOOT IN STATE OF THE STATE OF	がされる。したがって自学 が違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで 務経験のある教員による授 ティの概要を理解する 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる	
意点 受 業 の原	禹性・履信 ティブラーニ 画	レ 授 本自まりるとな の上 グ週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	ンの目の2くと違う マーカー 態 成慣のえ多たレー	で手法等には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー 情のみならず、予 にが必要でする。その 自つを行う発表を行う 全く分野が異ない の評価は、学生間で キュリティ シ1 シ1 シ1	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	文字 (2) (2) (2) (3) (2) (3) (2) (4) (2) (5) (2) (4) (2) (5) (2) (6) (2) (7) (3) (6) (4) (7) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (9) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (10) (4) (業を行うも ででである。 ででは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ	SOOT IN THE SECOND IN THE SE	がされる。したがって自学 の違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで 務経験のある教員による授 「一人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる	
意点 受業の原 アクラ	禹性・履信 ティブラーニ 画	上グ週週週回回 <t< td=""><td>ン T 対</td><td>・手に表着シいわがー T</td><td>Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー ものみならず、予 が必要でする。その はごを行う発表を異ない では、学生間で をは、学生間で シ評価は、学生間で シコー シコー シコー シコー シコー シコー シコー シコー</td><td>ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行</td><td>実践自習野あ知 本自自の下のである 本自自自自のののの 自自ららのの 自ららのの 自らののの 自らののの 自らののの 自らののの 自らののの 自ののの</td><td>業行うも、</td><td>が は、全野プログライン では、全野プログライン できます という できます いっぱい はいい はいい はいい はいい はいい はい はい はい はい はい はい</td><td>がされる。したがって自学 の違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで 務経験のある教員による授 「一人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる</td></t<>	ン T 対	・手に表着シいわがー T	Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー ものみならず、予 が必要でする。その はごを行う発表を異ない では、学生間で をは、学生間で シ評価は、学生間で シコー シコー シコー シコー シコー シコー シコー シコー	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	実践自習野あ知 本自自の下のである 本自自自自のののの 自自ららのの 自ららのの 自らののの 自らののの 自らののの 自らののの 自らののの 自ののの	業行うも、	が は、全野プログライン では、全野プログライン できます という できます いっぱい はいい はいい はいい はいい はいい はい はい はい はい はい はい	がされる。したがって自学 の違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで 務経験のある教員による授 「一人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる	
注意点 受業の原 コアクラ	禹性・履信 ティブラーニ 画	上型型型<	ンの 目の2くと違う	/手に表着といわが・・ T	Dいて講義とプレインでは、 D他にプレゼンテート ものみならず、予定が必要でする。その はいを行う発表を異ない。 D評価は、学生間で サユリティー シエー シエー シエー シエー シエー シエー シエー シエ	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	実 各自 分は礎 う 対 支 自 習 野あ知 。 ぶ 自 自 自 自 自 を 自 を 自 を 自 を 自 を 自 を 自 を 自	業行うも ででは、	のでは、全分のでは、全分のでは、全分のでは、全分のでは、全野プロス・サース・サース・サース・サース・サース・サース・サース・サース・サース・サー	断される。したがって自学 の違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す ンテーションにはこれまで 務経験のある教員による授 それて理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる れに理解させる	
^{注意点} 受業の原	禹性・履信 ティブラーニ 画	上型型型<	ンの 目の2くと違う ()	・手に表着といわが・ T	Dいて講義とプレインでは、 D他にプレゼンテート ものみならず、予定が必要でする。その はごとて了発表を異ない。 の評価は、学生間で シ評価は、学生間で シコンコーションコーションコーションコーションコーションコーションコーションコー	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	実体 分は礎 1 大の 2 の 3 大の 3 大の 4 の 5 の 6 の 6 の 7 の 7 の 8 の 9 の	業行うも ででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 でででは、 ででは、	5の 「	断される。したがって自学 の違う人達にもいかにわか がわかる人達を前に発表す シテーションにはこれまで 務経験のある教員による授 それて理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる しに理解させる しに理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる した理解させる したのではないとしまする はないたいに理解させる したいたいに理解させる したいたいにないとしまする はないたいたいにないとしまする はないたいたいたいにないたいたいにないたいたい。	
注意点 受業の原 コアクラ	属性・履信 ティブラーニ 画 1stQ	レ授本自まりるとない上グ週週週週週週週週週週111	ンの 目の2くと違う X	・手は表着といわが・ T	Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー 情のみならず、予 が必要でうがまる。その 自立を行う発表を異ない D評価は、学生間で キュリティー シ1 シ1 シ1 シ1 シ1 シ1 シ1 シ2 シ2	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	文字 A 大学 A 大学 A 大学 A 日本 B 日本<	業行的では、 でで	の 「	断される。したがって自学 の違う人達にもいかにわか。 がわかる人達を前に発表すで がわかる人達を前に発表すで 発経験のある教員による授 を理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りに理解させる りにのではないとしてした。 いから積極的にコンピュータ のはいたのではないとしている。 いから積極的にコンピュータ のはいたのではないとしている。 いから積極的にコンピュータ のはいたのではないといる。 いから積極的にコンピュータ のはいたのではないといる。 いから積極的にコンピュータ のはいたのではないといる。 いから積極的にコンピュータ のは、人に理解させる いたり、人に理解させる。 いから積極的にコンピュータ のは、人に理解させる。 いから積極的にコンピュータ のは、人に理解させる。 いたり、人に理解される。 いたり、人に理解させる。 いたり、人に理解させる。 いたり、人に理解させる。 いたり、人に理解させる。 いたり、人に理解させる。 いたり、人にでしたり、人にでしたり、人にでしたり、人にでしたり、したり、したり、したり、したり、したり、したり、したり、したり、したり、	
注意点 受業の原 コアクラ	属性・履信 ティブラーニ 画 1stQ	レ授本自まりるとない上グ週週週週週週週週週週週100 </td <td>ンの 目の2くと違う マー・マート の 目の2くと違う マー・ボード の習回伝がって 分</td> <td>/手に表着といわがー CT ミンフ・ティーティー (表着といわがー CT ミンフ・ティー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・デ</td> <td>Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー 情のみならず、予 が必要でうが表して 記さく分野が 学生間で シ評価は、学生間で シアイン1 ション1 ション2 ション2</td> <td>ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行</td> <td>文字 はいない である である では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、</td> <td>業行施 究度な</td> <td>の「熊(全分の 東 ユモ・ション・ディディディディで しく野プ ロ ・</td> <td>断される。したがって自学 が違う人達にもいかにわか。 がわかる人達を前に発表すで 一般経験のある教員による授 を理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる し、人に理解させる このも積極的にコンピュータのは、 このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものものにコンピュータのは、 このものは、人に理解させる このものものにコンピュータのは、 このものものは、人に理解させる このものものものは、このものは、このものは、 このものものものものは、このものは、このものは、 このものものものは、このものは、このものは、 このものものものは、このものは、このものは、 このものものものものは、このものものは、このものものは、 このものものものものものものものものものものものものものものものものものものも</td>	ンの 目の2くと違う マー・マート の 目の2くと違う マー・ボード の習回伝がって 分	/手に表着といわがー CT ミンフ・ティーティー (表着といわがー CT ミンフ・ティー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・デ	Dいて講義とプレイ D他にプレゼンテー 情のみならず、予 が必要でうが表して 記さく分野が 学生間で シ評価は、学生間で シアイン1 ション1 ション2 ション2	ブンテーションの ーション、討論を 習・復習等の自学 D際は自らの研究 って欲しい。普段 つ、その分野の基 での相互評価を行	文字 はいない である である では、	業行施 究度な	の「熊(全分の 東 ユモ・ション・ディディディディで しく野プ ロ ・	断される。したがって自学 が違う人達にもいかにわか。 がわかる人達を前に発表すで 一般経験のある教員による授 を理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる 人に理解させる し、人に理解させる このも積極的にコンピュータのは、 このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものは、人に理解させる このものものにコンピュータのは、 このものは、人に理解させる このものものにコンピュータのは、 このものものは、人に理解させる このものものものは、このものは、このものは、 このものものものものは、このものは、このものは、 このものものものは、このものは、このものは、 このものものものは、このものは、このものは、 このものものものものは、このものものは、このものものは、 このものものものものものものものものものものものものものものものものものものも	

		15週	まとめ										
	16週												
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標													
分類	分野		学習内容	学習内容の到達目標	五				レ 授業週				
評価割合													
	試験		発	表	資料・レポート	相互評価	ポートフォリオ	その他	4	計			
総合評価割合	合評価割合 0		35)	25	40	0	0	1	00			
基礎的能力 0		0)	10	25	0	0		5			
専門的能力	0		10)	10	10	0	0 30		0			
分野横断的能	野横断的能力 0		5		5	5	0	0	15				